

単子葉植物カヤツリグサ科

## スジヌマハリイ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



細井幸兵衛所蔵

細井

北海道を除いた国内に広く分布していますが産地は少ないです。

本県では小川原湖畔と岩木川流域の一部で確認されています。

高さが30~50cm、時には多少粉白気味で、茎の表面にはトクサのように縦に数條の隆起があります。この特徴は他のハリイの仲間にはないので、わかりやすいです。

なお、小川原湖畔の株は種子の時に刺針が明瞭でヒゲスジヌマハリイに当たります。

単子葉植物カヤツリグサ科

## ヒメワタスゲ

青森県：A

環境庁：情報不足



細井幸兵衛撮影

原 子

20~30cmのやせ細った感じの草で、葉が茎の下部にあり葉身が全く目立たないので、白い毛の花穂が出ないと見つけにくいです。ワタスゲの仲間ではありませんが、白い毛が出る様子が似ています。本州では八甲田山にのみ分布し、南限産地として知られていますが、現在は土砂の流入や踏みつけを免れたところにわずかに生きのびているだけです。

八甲田山でも分布域は限られていて、絶滅寸前の状態となっています。

単子葉植物ラン科

## コアニチドリ



兼平瑞夫撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類

県内山岳域の湿った岩壁や海岸近くの湿原から報告されている多年草です。6～8月頃に、白色あるいは紅色の小さな花を数個つけます。花弁のうちでもっとも大きい唇弁は3裂し、真ん中の裂片の基部近くに紅紫色の斑紋ほんむらがあります。花が終わった後に茎頂に数個のむかごをつけるという特徴があり、むかごによって仲間を増やすという戦略を駆使している植物でもあります。

山野草ブームで盗掘され激減しています。

齋藤

単子葉植物ラン科

## ミスズラン



沼田俊三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧IA類

高さがわずか数cmで、太めの縫い針ほどです。県内産のランでは最も繊細な種類です。

八甲田のアオモリトドマツ林で1983年に見つけられるまでは、浅間山を中心とした長野県の高地と静岡県に1か所の産地が知られていただけでした。

確認された産地は、登山路の崩壊土砂の流入で厚く覆われ、絶滅してしまいましたが、周辺で別な生育地が見つかる可能性は充分考えられるので、もし確認されれば保護したいものです。

原子

単子葉植物ラン科

## エビネ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

草丈30cmほどの多年草で、葉は長楕円形をし根際から束になって伸びます。花は淡紫色で、直立した花茎の上方に10個ほどつきます。地下茎は連球状になっています。

北海道から沖縄まで広く分布しています。県内では普通に見られていましたが、近年、株数が急激に減少しています。

観賞用としてサルメンエビネとともに大量に採取された情報もあります。

生育地である落葉樹林の保全と採取をしない事が望まれます。

単子葉植物ラン科

## ナツエビネ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

エビネの仲間ですが初夏に花を咲かせる種類です。

草丈40cmほどの多年草です。地際から長さ30cm位の楕円形葉を束にして伸ばします。

直立した花茎の上部に淡青紫色の花を12個ほど咲かせます。九州から本州、それに北海道の松山地方まで分布しています。県内では西海岸と津軽半島などを中心に見られますが、観賞用に採取されるなどして年々減少しています。

生育地の樹林の保全と採取をしない事が望まれます。

単子葉植物ラン科

## サルメンエビネ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



木村啓撮影

エビネ属の多年草で、束になって伸びている葉の中心から70cmほどの花柄を直立させます。花柄の上方に唇弁が朱紅褐色の花10個ほどつけます。

北海道から九州まで分布しています。県内では各地の落葉樹林下に見られますが、近年は急激に減少しています。

観賞用として、エビネと同様に、大量採取がされたという情報もあります。

生育地の環境保全と採取しない事が望まれます。

木村

単子葉植物ラン科

## ヒメホテイラン

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



兼平瑞夫撮影

本種は青森県内のヒバ林に広く分布し、北海道ではトドマツ林にまれに見つかるだけです。10cm前後の花茎の先にピンクの花を1個咲かせます。葉は1枚で裏側は紫色を帯びます。国内では本種の変種であるホテイランが中部地方の高山の針葉樹林下に分布しています。

本種より距の先が唇弁から大きく出ているのが変種のホテイランで日本ではこちらが早くから知られていました。

ヒバ林の伐採が本種の生育地を狭めています。

齋藤

単子葉植物ラン科

## ユウシュンラン



細井幸兵衛撮影

青森県：B  
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

草丈25cmほどの多年草です。ギンランの仲間で、茎には葉がほとんどありません。花は白色で、花茎の上部に数個つけます。

北海道から九州まで分布しています。県内では全域にあると思われませんが、確認されている地点はたいへん少ないです。

全国的にまれで、数も少ない種で、個体数がきわめて少ないため、生育地の保全と採取しないことが望まれます。

和名は植物学者の工藤祐舜こうしゅんに由来しています。

木村

単子葉植物ラン科

## キンラン



兼平瑞夫撮影

青森県：B  
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

草丈30cmほどの多年草で、花茎上部に金色の花を数個つけます。

本州から九州まで分布していて、本県が北限となっています。県内では、岩崎村、深浦町、車力村、大鱈町、青森市、南郷村などで見られます。

同属のギンランやササバギンランに比べて株数が断然少ないです。

生育場所は人里近くの低地や丘陵なので、開墾や整地などで絶滅が危惧されています。

生育環境の保全と採取しない事が望まれます。

木村

単子葉植物ラン科

## クゲヌマラン



兼平瑞夫撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

青森県から四国・和歌山県に至る太平洋側に分布するとされる、高さ40cm前後のランですが、近年、本県の日本海側からも報告されるようになりました。通常、砂質の立地に分布することが多いようです。全体的な姿はギンランに似ていますが、もっとも違う点は、ラン科植物の特徴とされる花びらの一部、すなわち距がほとんど突出しないことです。茎の先に長さ1cm程度の白色の花を数個つけますが、完全に開くことはありません。

齋藤

単子葉植物ラン科

## トケンラン



兼平瑞夫撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

草丈40cmほどのサイハイランに似たところのある多年草です。

葉は2枚あって、地面に伏しています。花茎は直立し、上方に7個ほどの花をつけます。花被は半開し、線状で淡黄褐色をし、紫色の斑点を散らしています。

北海道・本州・四国に分布しています。県内ではいくつかの地域でまれに認められるだけです。

生育地である落葉樹林の保全と採取しない事が望まれます。

木村

単子葉植物ラン科

## コアツモリソウ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



細井幸兵衛撮影

木村

草丈15cmほどの多年草です。茎の頂には、光沢があり対生する広卵形の葉をつけます。葉の中心から花柄を伸ばし、袋状で小形の花を1個咲かせます。

花色は黄緑で、淡紫のぼかしがあります。

北海道から九州まで分布しています。県内では各地に確認記録がありますが、小形であるのと、株数が少ないためになかなかみつけることができません。

生育地の保全と採取しない事が望まれます。

単子葉植物ラン科

## クマガイソウ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

草丈25cmほどの多年草で、茎の先に扇状の葉を対生させます。葉の中心から花柄を伸ばし、先端に鶏卵大で淡紅紫の1花をつけます。

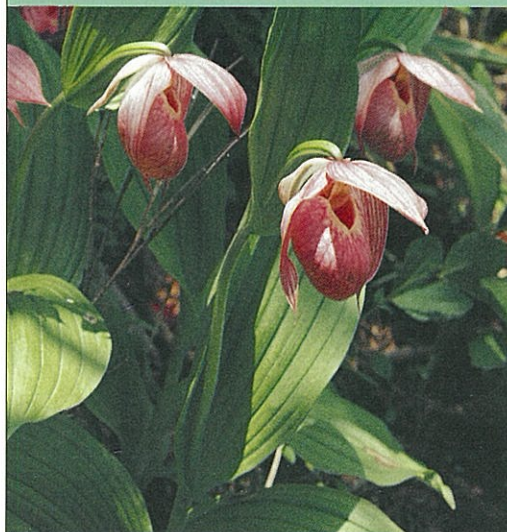
北海道から九州まで分布しています。県内では各地に見られますが、生育地の消滅と鑑賞用のために採取されて、極端に株数が減少しています。

生育地の保全と採取しないことが望まれます。

和名は、花形を源平時代の武者くまがい熊谷直実なほが背負っていた母衣はろに見立てての命名です。

単子葉植物ラン科

## アツモリソウ



根市益三撮影

原子

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

草丈35cmほどの多年草です。葉は3~4枚互生して、上方に包葉をつけます。包葉の脇に大きな袋状花を咲かせます。

北海道から本州中部まで分布しています。県内では各地の草地や樹下に見られましたが、現在ではきわめて珍しくなりました。

生育に適した草地や樹林が減少し、また、鑑賞用に採取されることが多く続き、減少傾向をたどっています。

生育地の保全と採取をしないことが望めます。

単子葉植物ラン科

## ハマカキラン



沼田俊三撮影

原子

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

草丈50cmほどの多年草です。茎や葉っぱ全体に縮れた毛を付けています。根茎が短くなっていくのも特徴です。

本州北部から愛知県までの太平洋側に分布しています。県内では東通村までの太平洋側の海岸砂地のクロマツ林に見られません。

個体数が極めて少なく、生育環境が悪化することによる消滅が危惧されます。

クロマツ林の保全と林床を破壊しないことが望めます。



単子葉植物ラン科

## ヒロハツリシュスラン

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



沼田俊三撮影

原子

ブナ帯の老木の樹幹や太い枝の上に着生しますが、枝の上のものは地上からは見つけにくいです。

県内の分布は割合広いようで、奥入瀬、平館村、蟹田町、大畑奥薬研などの記録がありますがまれです。

老木が伐られてしまったところが多いので、残されたところは守っていききたいものです。

ツリシュスランは本州中部以南の葉の巾が狭い型ですが、本種は北方に分布する葉の巾が広い型にあたります。

単子葉植物ラン科

## フジチドリ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



兼平瑞夫撮影

齋藤

狭い楕円形をした葉を根元近くで1枚出し、6~8cmの花茎の先に3~5個の花を咲かせる小型の多年草です。花茎は、下部が斜めに突き出した後に上方に向かう場合が多いようです。本種が本県で確認されたのは10数年前で、それまではフォッサマグナ地帯だけに生育するとされ、全国的にも報告例が少ない植物です。コケ類やシダ植物とともに幹枝の分岐点や横に張り出した太い枝などに着生することが多いようです。奥地開発・盗掘が本種の生育を脅かしています。

単子葉植物ラン科

## クシロチドリ



細井幸兵衛撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠA類

花がなければトンボソウに似ていますが地下に塊根かいこんがあります。花には距がありません。

北海道の釧路湿原で初めて採集されたので名前がつけられましたが、釧路では絶滅してしまっただようです。

本県では下北半島の海霧が当たる斜面や岩隙にまれに生えます。

細井

単子葉植物ラン科

## フガクスズムシソウ



沼田俊三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

高さ10cmほどの着生植物で、ブナなどのコケのある樹幹に生えます。

小さい株の場合は1~2花、大きい株では20花ほどつき、5~6月に咲きます。

本県では八戸市や三戸郡・上北郡を除く各地で記録されていて、本州・四国・九州に分布します。

スズムシソウとクモキリソウの雑種だとも言われています。

玉取りと称して盗掘されていることもあるようです。

原子